



20年経って、あらためて思う。

本屋は、**獲物だらけの山野で**
できている。

豊かで美しく奥深い山野なのである。

そこは、わくわくの狩り場である。同業の友人と、本屋で本を買うのは
ハントだねと熱く語り合ったことがある。買い物というよりは、狩り。

視覚、嗅覚、触覚をとぎすませ、獲物を探し、手に入れる。

書評や伝聞などの情報にはよらず、自分の感覚だけを頼る。

獲物という本が目の前にたくさん実在する本屋でこそ可能な狩りだ。

良い獲物をとれた時、狩人は満足し、

執筆もうまくいきそうな気持ちになる。

佐藤多伎子

2007年大賞「一瞬の風になれ」

全国の書店員が選んだいちばん売りたい本 本屋大賞 20th 開催中!



手帳ブランド NOLTY[ノルティ]は本屋大賞を応援しています。 NOLTY®
SINCE 1949